日刊工業新聞

年月日	16	07	05	ページ	05	NO.	

理工系の女性研究者支援

凛としていきる

理系女性の挑戦

リーダーシップを育成

オープンキャンパスでは教員・大学院生が相談に乗った

電気通信大学が科学技術振興機構（JST）の「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択されてから3年が経過した。私は2年目から常勤コーディネーターとして事業に携わり、4月から大学内の組織の一員として活動を続けている。

同事業に携わることになったのは、理工系分野に通じたジェンダー研究者だから、というだけではない。男女雇用機会均等法一期生として電機メーカーに就職したものの結婚を機に退職した苦い経験から、若い女性研究者に研究への思いを貫いてほしいと思ったからである。

2人目の子どもを出産後に社会学の修士課程に進学して以来、社会調査や大学生と関わる中で、女性の置かれている環境は私が退職した頃と驚くほど変わっていないと感じている。専門性が高く転勤が少ない理工系出身の女性は仕事と家庭を両立しやすいと思われがちだが、実際にはライフイベントを境に職場から去る者も少なくない。

「女性研究者研究活動支援事業」は理工系の女性研究者を育成し、仕事と家庭を両立しながら彼女たちがリーダーシップを発揮できる環境をつくることが目的だ。まずは女性研究者の増員が求められてきた。

電気通信大もこの趣旨に沿って、女性研究者対象のランチョン・ミーティング、女子大学院生・教員を含めた各種セミナー、女子学生による女性研究者インタビュー、研究支援員の配置などに取り組んできた。インターネットやニュースレターで、こうした活動を詳しく周知した。

この結果、この3年間で多くの女性研究者を迎え入れることができ、学内のさまざまな場所で女性研究者が活躍している。ただ、問題は研究の継続だ。将来、学内だけでなく学会や社会、広くは世界でリーダーシップを取れる研究者として女性研究者が成長することであろう。それには男性の理解も欠かせない。本年度から男性への支援も始めた。これらが実を結び、研究の活性化とともに研究者一人一人が豊かに生きられる時代になることを望んでいる。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

（火曜日に掲載）

電気通信大学
女性研究者支援室
特任准教授
菅野（すがの）摂子（せつこ）

〈プロフィル〉1986年(昭61)日本女子大家政学部数学科卒業後、富士通入社。09年立教大院社会学研究科博士後期課程修了。13年より現職。専門は医療技術とジェンダー。

無断転載・複写禁止©㈱日刊工業新聞社